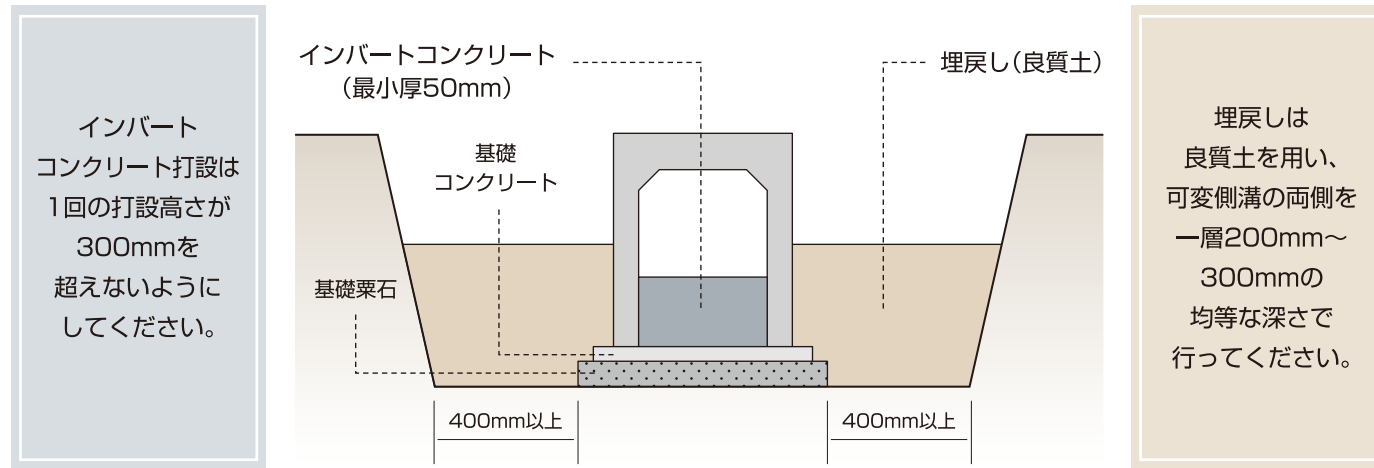


可変側溝を施工するときの注意点

◆インバートコンクリートの打設工、および埋戻工

インバートコンクリートの打設は、必ず埋戻工の前に行ってください。
先に、埋戻工を行うと、可変側溝の側壁が内側に変位し、クラックが生じることがあります。



◆締固め、舗装工

締固めや舗装工の際は、振動コンパクタや振動ローラー等により可変側溝を破損しないように十分に注意して行ってください。特に、振動ローラーが可変側溝の上に乗るような作業は禁止致します。



詳細については、可変側溝の施工マニュアルをご確認ください

可変側溝

「設置計画・施工」

ガイド



道路側溝の設計コンセプト

JIS A 5345 道路用鉄筋コンクリート側溝にも記載があるように、「側溝は、道路端の路肩に使用されるもので、車両は、側溝上又は側溝に隣接して走行することは少なく、一時退避などの場合にだけ、低速で走行するものとする」としています。

可変側溝(標準品)も、同様のコンセプトで設計されており、前述以外のケースで使用が想定される場合は、横断用製品を使用するなどの配慮が必要です。

注意事項

winII側溝・win側溝は縦断部専用の側溝です。車両横断部に利用しないでください。
車両横断部は、横断可変側溝をご利用願います。



- 埋め戻しを行う前に、必ずインバートコンクリートを打設してください。
- インバートコンクリートの打設は、最大厚30cmとしてください。それ以上の厚みは数回に分けて打設してください。
- コンクリート蓋が欠ける恐れがありますので、上から落とす様に設置しないでください。
- 用水路に用いる場合など、高い止水性が必要な場合は、別途樹脂コーキングなどを施してください。

可変側溝を設置計画するときのポイント

道路側溝として想定している設計荷重はT-25荷重ですが、使用状態で「縦断用」と「横断用」の使い分けが必要となります。

MAP上の色分け

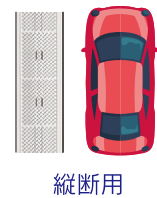
- 縦断用
- 横断用



縦断用 (標準品、土留品)

道路端の路肩に使用されることを想定

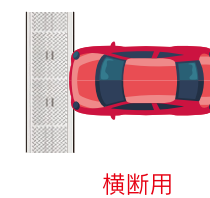
側溝の角部などは面取り程度で、蓋もコンクリート製



横断用 (横断品)

車両が側溝上を横断することを想定

側溝の角部や蓋の受け部などを鋼材にて補強して、蓋はグレーチング製



【横断用】

敷地への出入り口や通路などトラックやバスなどの大型車両が横断する箇所
また、乗用車程度の車両でも横断走行頻度が高い箇所

バスターミナル・ガソリンスタンドなど

【縦断用：標準品】
トラック車両の通行頻度が少ない道路端の路肩

公園など

【縦断用：標準品】
トラック車両の通行頻度が少ない道路端の路肩



【縦断用：標準品】
トラック車両の通行頻度が少ない道路端の路肩

住宅地・マンションなど

【縦断用：標準品】
住宅車庫前など、横断部であっても乗用車程度の通行頻度が少ない箇所

工場・物流センターなど



【横断用】
敷地内のトラック車両の通路



【横断用】

施設への出入り口などのトラックや乗用車より大きな車両が横断する箇所

病院・学校・消防署など

ショッピングセンター・コンビニなど

【横断用】
施設への搬入口などのトラック車両が横断する箇所

【横断用】
敷地への出入り口などトラック車両が横断する箇所



【横断用】

駐車場内の車両の走行が縦断方向に限らない箇所



【横断用】

施設への出入り口などの乗用車程度の車両でも横断走行頻度が高い箇所

